

令和7年度 小樽市立菁園中学校 学力向上改善プラン

1 生徒の実態

令和6年度全国学力・学習状況調査における本校の平均正答率は、国語は全国平均より3.1ポイント下回り、数学は5.5ポイント下回る結果となった。国語では、記述式問題の無回答率が本校前年度の数値を下回り、他の教科を含めた教育活動全体で「書く活動」を丁寧に行った結果と考えられる。数学では、図形・関数の領域では全国平均とほぼ同値になった。個別最適な授業を目的とした習熟度別学習や1人1台端末によるICT機器の活用によるものと考えられる。

家庭学習については、多い生徒とほとんどしない生徒の二極化の傾向があり、特に家庭学習習慣が未定着の生徒に対して手立てが必要である。そのためには、

(1) 家庭学習を行う目的や目標を明確化させる。(2) 家庭学習を行うための環境づくり。(3) 習慣化するまでの行動の在り方を示す。等の具体的手立てを行うことで改善を図りたい。また、家庭学習の定着を図るとともに、生活習慣スケジュール表等を活用した望ましい生活習慣を確立させることが課題である。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・記述式問題の回答率90%以上にする。
2年	・記述式問題の回答率90%以上にする。
3年	・記述式問題の回答率90%以上にする。

<数学科>

学年	定着目標
1年	・基礎的な問題を70%以上解くことができる。
2年	・基礎的な問題を70%以上解くことができる。
3年	・基礎的な問題を60%以上解くことができる。

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・家庭学習しない生徒をなくし、毎日70分以上、家庭で学習する生徒を40%以上にする。
2年	・家庭学習しない生徒をなくし、毎日80分以上、家庭で学習する生徒を40%以上にする。
3年	・家庭学習しない生徒をなくし、毎日90分以上、家庭で学習する生徒40%以上にする。

3 目標を達成するための具体的な方策

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ① 放課後学習を計画的、継続的に実施する。
- ② 数学科で少人数指導や習熟度別学習を英語科でTTを実施する。
- ③ 朝読書を年間計画的に実施する。

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ① 1単位時間の「課題」「振り返り」を意識した授業を工夫する。
- ② 公開研究会を通じた、授業の質を高めるための研修を進める。
- ③ 「自らの学びを深め、表現力をはぐくむ学びの工夫」を行い、課題の解決に向け自分で考え、自分で取り組む力を高める。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ① デジタル手帳を活用し、計画的に学習する力を育成する。
- ② 夏休み・冬休み学習会を計画的に実施し、長期休業中の学習サポートを行う。

4 実施計画

年月日	計画内容
R7年	・スケジュール手帳（デジタル）の配付と生徒への指導、保護者への説明
4月	・前年度等の全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ・チャレンジテスト（前年度問題）の実施 ・朝読書の実施（通年） ・放課後学習の実施（通年）
5月	○R7全国学力・学習状況調査の実施
6月	○全国学力・学習状況調査 自己採点
7月	○標準学力調査実施（第2学年） ○標準学力調査結果分析 ・前期保護者アンケート、生徒アンケートの実施 ・「デジタル手帳」を利用した家庭学習の振り返りの実施 ・チャレンジテスト（1学期末問題）の実施 ・学校運営協議会の開催 ・夏休みの補充的学習サポートの実施 ・小中一貫教育合同研修会
8月	○R7全国学力・学習状況調査結果分析
9月	○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
10月	・公開研究会の実施 ・前年度等の全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ・後期保護者アンケート、生徒アンケートの実施
11月	・小中合同学校運営協議会の開催 ・「デジタル手帳」を利用した家庭学習の振り返りの実施
12月	・チャレンジテスト（2学期末問題）の実施
R8年	・冬休みの補充的学習サポートの実施
1月	・研修アンケートの実施 ・学校運営協議会の実施
2月	・関係者評価委員会の開催 ・「デジタル手帳」を利用した家庭学習の振り返りの実施
3月	・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施 ○新学力向上改善プランの作成

5 評価方法

(1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ① 放課後学習を年間250時間実施する。
- ② 数学科で習熟度別学習を年間305時間以上、数学・英語・理科でTTを合計655時間以上実施する。
- ③ 朝読書を年間100日以上実施する。

(2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ① 生徒・教員アンケートで「授業で課題確認と振り返りの時間が工夫がされている」の肯定的回答90%以上にする。
- ② 校内研修を年11回以上、全教員による検証授業を実施する。
- ③ 生徒アンケートで「課題の解決に向け自分で考え、自分で取り組んだ」の肯定的回答85%以上にする。

(3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ① 生徒アンケートで「デジタル手帳を活用し、計画的に学習することができた」の肯定的回答を70%以上にする。
- ② 長期休業中の学習会を年24時間以上実施する。